

小学校 第5学年道徳科学習指導案		授業者：香美市立舟入小学校 北岡 麻理		児童数：18名		令和2年12月1日（火）5校時	
【主題名】 相手の立場を考える 【相互理解，寛容】高B－（11）				【教材名】 「すれちがい」（「生きる力5」日本文教出版）			
【本時のねらい】 よし子とえり子にどんな考えがあればよかったのかについて話し合うことを通して，互いを理解し人間関係を潤滑にしていけるためには，相手の立場に立って考えることが大切であることに気づき，広い心で相手の立場を尊重しようとする態度を養う。							
【指導の要点】 人は自分とは異なる考えにであったとき，相手の立場に立って考えることは容易なことではない。人は，自分本位に他人の過ちを非難したり，自分とは相いれない考え方や意見を否定したりする弱さをもっている。だからこそ，自分自身も過ちを犯すことがある人間の弱さを自覚し，相手の立場に立って考えようとすることが大切である。よりよい人間関係の構築のためにも，相手の立場や心を大切にすることについて考えを深めさせる。							
【主題に関わる児童の実態】 ・本学級の児童は，思いやりの気持ちが強く，進んで友達に関わろうとする児童が多い。休み時間には，誰とでも仲良く遊ぶことができる学級である。特別支援学級の児童がおり，低学年から一緒に過ごしてきたこともあり，困っている児童がいると自分から関わり，相手を分かろうとしている児童もいる。しかし，会話の中で相手の気持ちや立場を考えずに，自分本位に考え，ささいなことでもけんかになり，思ったことをそのまま口に出してしまうこともある。周りもその場の雰囲気流され同調してしまったり，自分の思いを我慢してしまったり，関わらないように遠ざかったりする児童などがある。				【授業を通して引き出したい児童の考え】 ・相手と話し合い，お互いを知ることが大切だな。 ・相手にも事情や気持ちがあるから，伝え合うことは大切だな。 ・相手の立場も考えないと，うまくいかない。 ・自分の考えだけでなく，人の思いを理解するとい関係でいられる。 ・相手のことを分かるのは簡単なことじゃないけど，分かろうとすることでトラブルもなくなると思う。 ・自分が正しいと思いこんでしまい，つい自分中心に考えてしまうことがある。 ・相手も自分も間違いをすることがあるから，お互いにそれを許せるような広い心をもりたいな。 ・自分とは違う考えの人も大切にすることで，友達との関係がもっとよくなると思う。			
指導上の工夫				板書計画			
自分自身との関わりで考えるための工夫		・よし子とえり子それぞれの立場を児童が選択し，すれちがってしまったのはどんな考えがあればよかったのかについて自分なりに考えをもたせる。		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>よりよい人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の立場を考える 相手へのきづかいをする 相手にも事情があるから，伝え合うことが大切である ふだんからたがいを知ることが大切である 相手の失敗も広い心で受け入れることが大切である。 </div> <div style="width: 45%;"> <p>お互いを分かり合うためには… 大切な考えとは…</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">よし子</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">えり子</div> </div> <p>どんな考えをもてばよかったかな</p> <p>【よし子】 相手に何か理由があるかもしれない。電話がかかってこなくても何かあったのかもしれないと考えるようにする。 遅れてきても，えり子に何があったのかを考え，腹を立てずにどうしたのかを聞く。</p> <p>【えり子】 自分の都合で約束の時間を勝手に4時と考える。まずは，よし子の状況を考え，連絡がつかないとよし子が心配するのではないかという考えをもつ。</p> </div> </div>			
多面的・多角的に捉えるための工夫		・異なる立場で考えた児童同士を交流させ，両者の共通する思いや，相違点について考えを広げさせる。 ・終末では相田みつをさんの「セトモノの詩」を紹介する。					
授業の評価の観点		・登場人物の立場に立たせ，どのような考えがあればよかったのか自分自身との関わりで考えさせることができていたか。（自分自身） ・異なる立場の意見や考えを交流させ，互いを理解するために必要な思いとはどのようなものか考えさせることができていたか。（多面的・多角的）					
児童の評価の視点		・登場人物の立場に立って心の弱さやそれを乗り越えるために大切な考え方について自分自身との関わりで考えようとしていたか。（自分自身） ・お互いを理解し合うことについて，立場や考え方，理解し合うことの良さについてなど様々な視点から考えようとしていたか。（多面的・多角的）					

【学習指導過程】

	学習活動と主な発問（○），補助発問・問い返し（◆），留意事項（・）	予想される児童の反応
導入	1. アンケート結果を知る。（2分） ・仲良しの友達と意見が分かれたときどうしているかのアンケートの結果を伝える。 ・考え方を知り，ねらいとする価値への意識づけをする。	（アンケートより） ・我慢する ・自分の意見を押し通す ・近づく ・関わらない ・無視をする
展開	2. 教材の範読を聞く。（4分） 3. 教材について話し合う。（20分） ・範読の後，短冊でそれぞれの行動を確かめる。 【ピアノ教室にいっしょに行く約束をした二人】 【すれちがい】 【二人の友情関係がうまくいなくなってしまった】 ○問題は？ ○二人はどんな考えをもてばよかったのだろう。よし子，えり子のどちらかの立場に立って考えよう。 ・よし子（えり子）の立場に立った時，どのように考えるのかを考える。 ・同じ立場の児童同士で交流する。 ・違う立場の児童同士で交流する。 ◆許すということは，我慢することですか。 ・一人が我慢するのではなく，お互いがお互いを考えることの良さについて気付かせる。 4. 互いを理解するために大切な考えについて話し合う。（12分） ○お互いが分かり合うためには，どんな考えが必要だろう。 ・道徳ノートに自分の考えを書き，発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分勝手に行動をした。 相手のことを考えていなかった。 <p>【よし子】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手にも何か理由があるかもしれない。 電話がかかってこなくても，何かあったのかもしれないと考えるようにする。 遅れてきても，えり子に何があったのかを考え，腹を立てずにどうしたのかを聞く。 <p>【えり子】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の都合で約束の時間を勝手に4時と考える。 まずは，よし子の状況を考え，連絡がつかないとよし子が心配するのではないかという考えをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 相手の立場を考えて行動することで，相手の失敗も受け入れることができそうだな。 自分に悪いところはなかったか考えてみると，許す気持ちになれそうだな。 自分中心的な考えではだめで，まずは相手の話を聞くことが大切だな。 相手にも事情があるから，話し合いをして互いの思いや考えを知ることが大切だな。 相手と話し合い，互いを知ること，相手の失敗も許すことができそうだな。 許すことでよい関係ができそうだな。 相手への気遣いが必要であり，そうすることでいい関係が続きそうだな。
終末	5. 本時の振り返りをする。（7分） ノートに自分の考えを記入することを通して，今日の学習について振り返る。 相田みつをさんの「セトモノの詩」を紹介する。（オルゴールを流す）	・相手の立場も大切に考えることでけんかせず仲よくできることが分かった。だから自分も意見が分かれた時には相手の考えや立場も考えた行動をしていきたい。